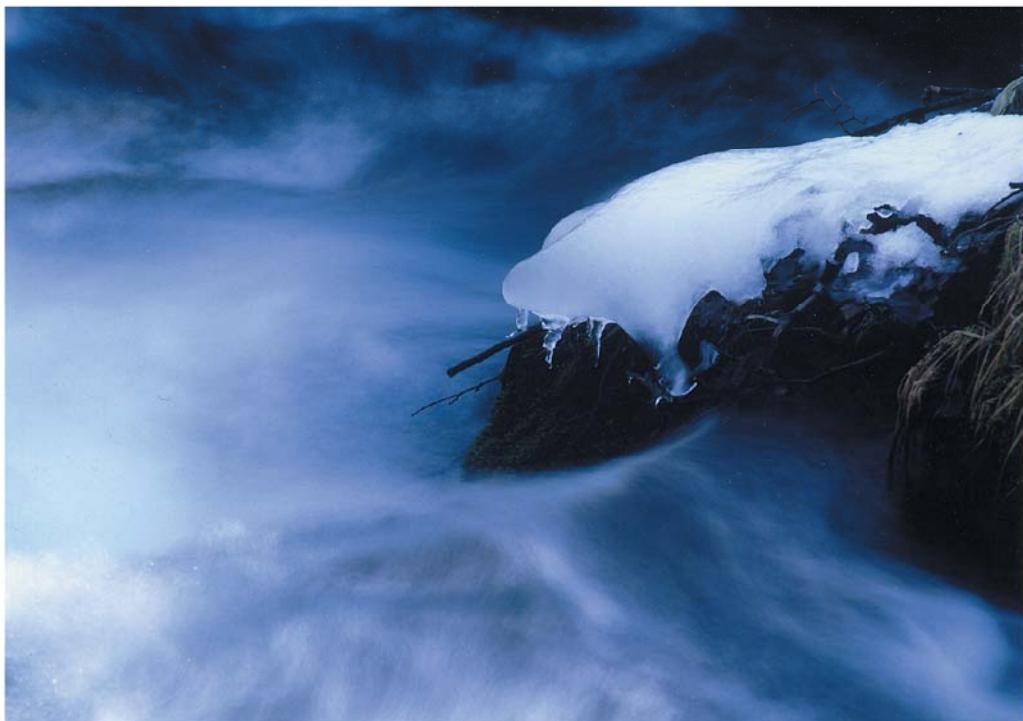


# 西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第483号 平成25年3月



『雪解けのせせらぎ』 田村 啓彦

## 目

## 次

	頁		頁	
1) 感染症だより	西多摩保健所	… 2	9) 糖尿病医療連携検討会からの 今月のメッセージ	木本成昭 … 12
2) 都道府県紹介	西成田 進	… 3	10) 第12回在宅医療連絡会報告	川口卓治 … 12
3) 西多摩医師会新年賀詞交歓会	福祉部	… 4	11) 第2回西多摩認知症医療連携委員会報告	江本 浩 … 14
4) 専門医に学ぶ	高田夏彦	… 6	12) 理事会報告	広報部 … 14
5) 連載企画 冬の“ぬる湯”温泉	馬場真澄	… 7	13) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 17
6) 広報だより 耳垢	松本 学	… 8	14) あとがき	渡邊哲哉 … 18
7) 公立福生病院症例発表講演会	広報部	… 9	15) 表紙のことば	田村啓彦 … 19
8) 西多摩地区医療懇話会	奥村 充	… 11	16) お知らせ	事務局 … 19

## 感染症だより

### 〈全数報告〉

第3週(1.14~1.20)から第6週(2.4~2.10)の間に、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核 2件 (肺結核 2件)

(三類感染症) なし

(四類感染症) なし

(五類感染症) 麻しん 1件

### 〈管内の定点からの報告〉

	3週	4週	5週	6週
	1.14~1.20	1.21~1.27	1.28~2.3	2.4~2.10
RSウイルス感染症		2	1	
インフルエンザ	497	720	564	313
咽頭結膜熱	2	3	2	3
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	15	5	8
感染性胃腸炎	46	30	41	50
水痘	9	16	3	11
手足口病		1		
伝染性紅斑				
突発性発しん	2	4	2	1
百日咳				
ヘルパンギーナ				
流行性耳下腺炎	3			2
不明発疹症				
MCLS				
急性出血性結膜炎				
流行性角結膜炎	1			
合 計	565	791	618	388

基幹定点報告対象疾病〈細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)〉

マイコプラズマ肺炎 3件 (1~4歳 2件、5~9歳 1件)

### 〈コメント〉

① インフルエンザの報告は減少しています。

都内での平成25年第4週の定点当たり報告数は41.3人と、流行警報の基準を超えたため、1月31日に都は流行警報を発表しました。西多摩保健所管内でも平成25年の定点当たり報告数は第2週21.3人、第3週35.5、第4週51.4と増加し、過去5年では、昨シーズンに次ぎ多い報告数でした。

その後、全国、都内、管内とも定点当たり報告数は第4週をピークに低下してきており、管内では第5週40.3、第6週22.4となっています。なお、第6週時点で全国は愛知県、鹿児島県、新潟県など、都内は荒川区、八王子市などの順で高くとなっています。

管内の社会福祉施設等からは集団発生の報告は減少していますが、保育施設では迅速検査でB型の報告もみられます。また、例年、管内の定点医療機関からは4月頃まで報告がありますので、今後しばらくは注意が必要です。

予防のポイントは、外から帰ったときや、咳・くしゃみを手でおおったときの「手洗い」、咳やくしゃみをする時はティッシュやマスクを口と鼻にあて、他の人に直接飛まつがかかるないようにする「咳エチケット」です。また、初発の有症状者が確認されたら、速やかに拡大防

止対策を実施していくことが重要となります。

## ② 風しん流行が継続しています。

都は、昨年6月14日に注意を喚起しましたが、その後、これまでにない規模の流行が継続しているため、2月7日に注意を喚起しました。昨年からの傾向として、患者は20代から40代の男性が多く、女性では20代の割合が高くなっています。また、患者の多くは予防接種歴がない又は確認できない方となっています。

都内では、平成23年の週当たりの平均患者報告数は0.6人でしたが、平成24年7月以降は23.0人となっています。風しんは診断した場合には全数届出が必要な疾患となっており、西多摩保健所管内からは平成24年第1週から平成25年第6週までに患者の報告は1件です。

風しんは、主に咳やくしゃみにより感染します。症状は2～3週間の潜伏期間において、発熱、発疹、リンパ節腫脹などが出現します。基本的には予後良好ですが、風しんに対する免疫を持たない妊婦が妊娠初期に感染すると、先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。特にこれから妊娠の可能性のある方やそのご家族等で風しんにかかったことのない場合には予防接種をご検討ください。

文責：東京都西多摩保健所保健対策課

## 都道府県紹介



## 第8回 茨城県



### 茨城概観 ー酔いにまかせてー (2)

茨城大使（兼公立阿伎留医療センター副院長）西成田 進

**《スイカとメロン》** 夏、アンタが自分の金で買ってきて安くてうまい、うまい、と食っているものの多くはメイド・イン・イバラキである。もらい物で食べる高価なやつはどうも北の方からの輸入物らしい。

**《水戸の梅》** ウメの花ではない。白いアンを、甘しそっぽく仕込んだ紫蘇の葉で包んだ銘菓である。緑茶に相性抜群であるが、水平に半分に切って酢飯の上に寿司種のように乗つけてチョットだけ醤油たらして食ってみろ。白い飯に相性の良い日本で唯一のスイーツである。

**《納豆》** 本場である。ネギ、大根おろし、玉子、海苔、オクラ、からし、唐辛子、何をまぜてもよい。しかし、やはりきざみネギで

ある。それも臭いの強い青いところ。口のまわりがネバネバで食後しばらくチューはできない。そのため納豆は晩飯ではなく朝飯で食べるのが常識。味噌汁に入れるやり方もあるらしいが、原人には邪道の食い方。

**《米》** 袋のブランド名と産地にだまされず、目つぶって食えば日本で一番うまい米である。

**《袋田の滝》** 水戸から水郡線で久慈川の清流に沿ってダラダラと、山桜、新緑、紅葉を楽しみながら大子下車。日本一の名瀑。冬の凍結した氷壁も見もの。そのまま矢祭まで行っての自然も相当なものだが、郡山まで行かずにUターンして大子へ戻り、袋田温泉入ってこんにゃく料理でダイエット、が一杯飲んですべてキャラ。

《人物》水戸黄門。日本ではじめてラーメン食べた人。諸国漫遊は全部うそである。西山荘は常陸太田市にある。深い木々に囲まれた黄門の住居。「大日本史」の編纂を進めた。夏、近くで蕎麦（常陸秋そば）食って、日暮しの大合唱聴いて、メロン買って帰れば東京の田舎者には最高の日帰り旅行。さて「人物」へ戻る。雪の桜田門外で暴れた方々。詩人の野口雨情（北茨城）、作曲家の吉田正（日立）、画家横山大観（水戸）、いずれも知らぬものなし。多田富雄（結城）、知る人ぞ知る世界的免疫学者にして新作能の作者。

《女性》美人の多い県というものがある。来てみればすぐ判る。美人はどうも潮来から舟に乗って美人のいねえ隣の県へ嫁に行つちまつたらしい。

《ひたち海浜公園》とにかくだだっ広い。四季折々の花々、写真家には最高。子供を放し飼いにして親は昼寝、金を使うところがない。どこまで歩いても公園の端にたどり着けず、恋人達は会話のネタがなくなるのでデートには不向き。デートは日比谷公園程度の

騒々しくて狭い人工庭園か、金がかかる何とかランドがよろしい。

《偕楽園》いわずと知れた梅で有名な日本一の名園。2月下旬の梅祭り、混んで疲れるだけなのでやめとけ。春、夏、秋、そして雪の積もった冬、梅の季節以外は全部よろしい。個人的には好文亭の下の白いコブシの花だなあ。

《えばらぎ》茨城は「いばらき」と発音し「いばらぎ」となまらない。大阪の茨木のことなんか知りません。ただ、正統な茨城原人はフランス語に似て「い」と「え」の発音が中間的で、しばしば「えばらぎ」と発音します。この場合、最後の「き」が「ぎ」に語尾変化して「えばらぎ」になります。本来これがもつとも正しい発音です。ちなみに大部分のパソコンソフトでは「いばらき」と入れても「いばらぎ」といれても「茨城」に変換されますが「えばらぎ」を入れると漢字に変換されません。こういう重大なミスが放置されたままになっているところが、この県の世界的認知度が今ひとつと指摘される所以です。

## 平成25年 西多摩医師会新年賀詞交歓会

西多摩医師会新年賀詞交歓会が平成25年1月19日（土）に青梅市福祉センター「ふよう」にて開催されました。御来賓20名、医師会員42名の計62名に御参加いただきました。

はじめに横田卓史会長の挨拶で開会となりました。4月1日より医師会の一般社団化、100周年式典、新会館の完成等新しい組織と会館で地域医療に新たな気持ちで貢献していきたいとの挨拶でした。

御来賓の祝辞は都議会議員を代表して林田武議員、市町村長を代表して竹内俊夫青梅市長、並木心羽村市長より医師会に期待するお言葉をいただきました。次に御来賓の方々の御紹介をさせていただきました。その後、前都議会議員 野村有信先生の音頭で乾杯となりました。しばし歓談の後国立音楽大学演奏科卒業生、述田佳代子様（ヴィオラフォン）、北川ゆり様（マリンバ）、松岡のぞみ様（打楽器）等による演奏が始まり皆様穏やかな表情で聴き入っておられました。この後、選挙直後の御多忙の中、途中来席されました衆議院議員 井上信治（環境副大臣）先生より原発対応、環境変化等難しい課題に取り組んでおり医師会の協力に感謝しますとの挨拶でした。

次に恒例の抽選会が行われデジタルカメラ、エスプレッソメーカー、iPod nano 等沢山の景品が横田会長より当選者に手渡されました。

宴たけなわとなり手じめの音頭は松原内科医院院長 松原貞一先生にお願いしました。

最後に鹿児島武志副会長より自殺者の減少傾向、新内閣による経済浮揚対策等期待のもてる年でありたいとの閉会挨拶では無事お開きとなりました。今回も企画、受付、写真撮影等多大な協力をしていただきました医師会事務局の皆様方に感謝申し上げます。

(文責: 福祉担当 朱膳寺 洋文)



# 専門医に学ぶ 第98回

## 問題

【症例】6か月、女児

【主訴】左足関節発赤・腫脹

【既往歴】特記すべきものなし。正期産、正常分娩。成長発達に問題なし。

【家族歴】特記すべきものなし。

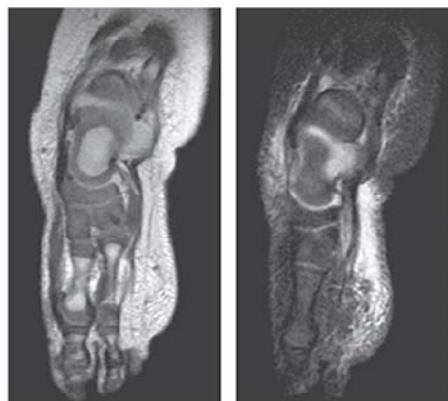
【現病歴】当院受診1週間前から感冒様症状があり、当院受診前日おむつを替えようとしたとき泣くことに親が気付き、39℃台の発熱および左足関節の発赤・腫脹が出現したため近医小児科を受診した。解熱薬を処方され経過観察を指示したが、翌日も症状が改善しないため、当科を初診した。

【初診時現症】体温38度2分。左足関節に発赤、腫脹、熱感をみとめ、可動時に啼泣した。関節穿刺を施行したところ、膿性の関節液を採取した。

【初診時血液生化学検査所見】WBCとCRPの上昇を認めた。

【単純レントゲン像】骨軟部組織に明らかな異常は認めなかった。

【MR像】T1、T2像で共に足関節内に高信号域を認め、関節液の貯留と考えられた。(図1)



(図1)

問題：診断は？

## 解答と解説

公立阿伎留医療センター 整形外科 高田 夏彦

現症、検査所見より化膿性足関節炎と診断した。

初診同日入院し、即日鏡視下滑膜切除術を施行した。術翌日には36℃台に解熱した。術後セフォチアム投与を続けた。関節液の培養からはインフルエンザ桿菌が検出され、感受性を考慮して抗生物質をセフォタキシムに変更した。術後、WBC、CRPは低下し、CRP陰性化を確認し術後14日目で抗生物質を内服に切り替え退院とした。

## 考察

小児化膿性関節炎の頻度は10万人に5.5人から12人と報告されており、股関節が最も多く、次いで膝関節、足関節となっている。本邦での化膿性足関節炎の頻度は小児化膿性関節炎の約4～10%と報告されており、比較的まれな疾患である。起炎菌として以前は黄色ブドウ球菌が多くなったが、最近の報告ではインフルエンザ桿菌によるものが一番多いとされている。

以前は抗生物質の第一選択は第一世代または第二世代のセフェム系とされていたが、最近はより広域な第三世代セフェム系またはカルバペネム系抗生物質で治療を開始し、培養結果や薬剤感受性を参考に抗生物質を変更することが勧められている。またMRSAも考慮してパンコマイシン

の併用が有効であるとの報告もある。

化膿性足関節炎の後遺症として足関節内反変形の報告が散見され、治療の遅れによって内反変形が起こると著しいADLの低下が起こる。後遺症を避けるためにも、化膿性足関節炎は早期に診断し、観血的治療をするべきである。

### 連載企画



## 冬の“ぬる湯”温泉

日の出町 馬場内科クリニック 馬場 真澄

土曜日の午後から出かけるプチ旅行は、雪景色と温泉に惹かれた関越道の旅となった。小雪の降る日にも拘らず、月夜野インターで降りて、曲がりくねった三国街道を選んだ“のんびり旅”である。夕方、越後湯沢の部屋に着いて、久しぶりのナイタースキーを楽しんだ。年を重ねる度に、緩斜面のゲレンデで充分と思うようになってきている。

翌朝、三国街道をもどり奥湯沢の貝掛温泉へ向かう。街道から右手に折れ、厚い雪の壁を進むと、清津川に架かった長い橋が見えてくる。雪で覆われた橋は長さおよそ80m、車幅すれすれの狭い鉄橋を渡って一軒宿の温泉に着く。貝掛温泉は、秘境温泉、神秘の湯、眼にいい湯で知られ、温泉の水は明治の初期まで貝掛の目薬として販売されていたそうだ。露天風呂に入ると山々の雪景色が眼前に広がり、木の枝に積もった雪がそよ風に吹かれてふわふわと頭に落ちてくる。温度はぬるく37度。寒くて湯から上がれない。湯船の中で動くのも寒く、じっとそのままいる人が集まつてくる。遠くからやって来るリピーターたちと各地の風呂談義、美味しい酒の話が弾むのも嬉しい。この露天風呂の真ん中に、酒盛りには丁度良い卓袱台ぐらいの石があった。風呂あがりに宿のご主人に尋ねたところ、ビン、コップなどの割れた硝子を取り除くのが大変なため、露天風呂での雪見酒はやっていないそうだ。軽酒なら良いのにと思うが残念である。

勤務医の頃、“日本秘湯を守る会”的本を持って、掲載された宿のスタンプを集める旅に出かけていたが、ランプの灯りの下で囲炉

裏を囲んで団欒する風情は無く、車で簡単に行ける秘湯には何か物足りなさを感じていた。しかし、雪で道を阻まれ、ようやく辿り着く温泉は、私にとってやはり秘湯である。

温泉とは、地下から湧き出す水、ガス、水蒸気の温度が25度以上あるもの。あるいは決められた成分が基準以上あるものを温泉と定義しているため、“ぬるい温泉”も各地に存在する。冷たくも熱くもない湯温度を不感温泉と言って、水では35～36度とされている。不感温度の“ぬる湯”は、長時間入浴しても身体の負担が少なく芯から温まる。また、副交感神経を優位にしてリラックスさせる効果があるとされているので、のんびり、ゆったりする湯治的な温泉に最適である。

薄明かりがアーチ状の窓に漏れ、杉の丸太で仕切られた湯船で入浴するシーン。旧国鉄のフルムーン旅行の宣伝で有名になった法師温泉長寿館もまた“ぬる湯”的秘湯である。私が特に好きな“ぬる湯”は小出インターから15kmの山奥にある柄尾又温泉自在館。泉質はラジウム泉、泉温35.4度。ラジウム泉から出るラドンは自然治癒力を刺激し活性化し、万病の湯とも言われ親しまれている。昔の人たちは、冬の農閑期に食料と自炊道具を携えて長湯治に来たそうである。その面影を残した炊事場付きの二階建ての古い建物が今も残っており、部屋から古い建物を通って湯殿に行くのも情緒がある。以前は日帰りでも入浴できたが現在は宿泊しないとラジウム泉に入れないのは残念である。歳をとっても未だに、気まぐれな“温泉旅行”を続けている。

# 広報だより



## 耳垢

あきる野市 まつもと耳鼻咽喉科 松本 学

耳垢は外耳道の耳垢腺や皮脂腺から分泌された分泌物と皮膚の垢や塵埃などに混ざったものです。外耳道は手前側3分の1(軟骨部)は皮膚に耳毛、耳垢腺、皮脂腺などがありますが、鼓膜に近い奥側(骨部)は皮下組織が薄く耳毛や耳垢腺などはありません。したがって耳垢は手前側にたまります。耳垢は乾いたもの(乾型)と軟らかく湿ったもの(湿型)があります。これは人種間で特徴があり、白人や黒人は湿型で、モンゴル系やアメリカインディアンは乾型が高頻度に認められます。日本人では85%が乾型、15%が湿型と言われています。耳垢のタイプは遺伝的なもので生涯変わることはありません。耳垢は地域によっていろいろな呼び方があり、法水正文博士が約10年かけて日本全国の耳垢の方言を調査して、「日本言語地図」という本を作成しています。それによると乾型湿型の区別なくミニアカ、ミミクソという呼び方が全国共通で、その他おもしろいものとしては乾燥タイプの耳垢ではソラ耳、カラ耳、コナ耳、風耳、畑耳、コッパ耳、耳ゴケ、フルフル耳、そばかすなど語種が90あり、これらを類似語でまとめると29種類に分類されるということです。一方、軟らかいタイプの湿型耳垢はアメ耳、ジリ耳、油耳、水耳、ミソ耳、耳乳、耳海苔、ネリヤク、ウサギ耳、水田耳、沼田耳、ビンツケ耳、ハチノコ、ギンナンなど語種が220もあり類似語にまとめても187種類に集約されただけで、乾型耳垢に比べて非常に多くの方言分布を示しています。これは湿型耳垢が珍しかったので注目され独特の名前で呼ばれるようになったと言われていますが実際はどうなのでしょうか。こうした方言

は聞くと思わずホッとするような独特の温かさを感じます。この方言を分類された法水先生は数年前に亡くなられましたが、90歳を過ぎても現役の耳鼻咽喉科医として診療していました。私が以前勤務していた病院と法水先生がいらした病院が近所だったので、お話を伺ったこともあります。その時耳垢の話もお聞きしたような気がするのですが忘れていました。もっとまじめに聞いておけば良かったと後悔しています。

ここ西多摩地域では、普通にミニアカ、ミミクソと全国共通の呼び方を使っているようです。時折変わった呼び方をされる方がいると、「この辺の方言ですか?」と尋ねるのですが大概それは出身地方の呼び方をそのまま使っているか自分で作った呼び方(コロコロ、カラカラ、パラパラなどの擬音語)だったりで、この地域独特のというものには出会っていません。もし西多摩独自の呼び方をご存知の方がいらっしゃいましたら是非ご教示ください。

ただ最近は「耳のゴミを取って」とか「耳そうじしてください」と言って受診される方が多く、ミニアカ、ミミクソという言葉は患者さんからあまり聞かれなくなりました。ミミクソはともかくミニアカはそのものずばりでわかりやすい良い言葉だと思うのですが。



## 公立福生病院症例発表講演会

平成 24 年 12 月 13 日（木）公立福生病院で症例発表講演会がありました。

公立福生病院 耳鼻咽喉科 永藤 裕先生、外科 小高哲郎先生から症例発表がありました。

### 耳鼻咽喉科「劇症型急性喉頭蓋炎の 1 例」

公立福生病院 耳鼻咽喉科 永藤 裕

のどかぜをひいたとして外来を訪れる患者さんは多いですが、中には直ちに治療を開始しなければならない疾患があります。その代表に急性喉頭蓋炎があります。急性喉頭蓋炎は急激に気道閉塞を引き起こし死に至ることもある緊急性の高い疾患で、その対応を誤ると医事紛争となることもあります。今回は当院で経験した劇症型の急性喉頭蓋炎を報告するとともに、治療における注意点について述べさせていただきたいと思います。

症例：30 歳、男性

主訴：嚥下時痛、含み声

生活歴：タバコ 10 本 / 日

現病歴：前日夜遅くから咽頭痛を認め、ロキソニンを内服するがつばを飲み込めなくなり、朝一で当院通常外来を受診した。

身体所見：体温 37.5°C SpO<sub>2</sub>: 97%

咽頭所見：軽度咽頭発赤あり。

喉頭所見：喉頭蓋舌面浮腫あり。

右披裂喉頭蓋ひだ軽度浮腫あり。

初診時気道は十分確保されていた。

検査所見：WBC 23700 × 10<sup>3</sup>/μl

CRP 0.3mg/dl

咽頭培養：H. influ Grp I 2+

その後の経過：外来診察後点滴加療するも、3 時間足らず急激に気道閉塞が進行し病棟で窒息状態となる。その場で挿管試みたが不成功のため、気管切開術を行い救命した。その後は順調に回復し 9 日目に気管孔閉鎖、14 日目に後遺症なく退院となりました。

本邦の調査によると年間発症数は約 3200 例、死亡例は 7-8 例と推定され、約 1% の症例は窒息に近い状態になると言われています。急性喉頭蓋炎の治療の最大のポイントは気道確保ですが、タイミング、適応を的確に判断することが重要であります。一般的に約 10% の症例に気道確保が必要であるといわれます。本症例のように症状出現から呼吸苦出現まで 24 時間以内の症例は劇症型といわれ、劇症型は高い確率で気道確保が必要とされます。劇症型の中にはさらに急速に気道閉塞が進行するタイプが存在し、自覚症状出現から約 1 時間で呼吸停止に至った症例の報告もあります。

気道確保の適応は①呼吸困難を伴うもの。②喉頭蓋の腫脹に加え、披裂喉頭蓋ひだ、披裂部、仮声帯に腫脹が及ぶのも。③劇症型。以上 3 つと言われ参考すべき項目として白血球数 2 万以上 基礎疾患合併例が挙げられます。

超緊急時の気道確保の方法は輪状甲状腺穿刺・切開後外科的気管切開術が推奨されているが、

患者の状態、医療機関側の体制、診療医師の専門・経験数で臨機応変に対応する必要があります。

急性喉頭蓋炎は気道確保さえすれば予後良好な疾患であります。重症度をしっかりと見分け、重症度が高いと判断されたときはすみやかに適切な処置をとることが肝心だと思われました。

## イマチニブ療法後に完全切除した消化管間質腫瘍 (GIST) の 3 例

公立福生病院 外科 小高 哲郎

消化管間質腫瘍 (GIST) は、消化管間葉系腫瘍の約 8 割を占め、KIT あるいは CD34 などを発現し、純粋な平滑筋腫や神経鞘腫とは異なる表現型を示す。年間 10 万人に 2 人の発症を認め、胃 (60 ~ 70%)、小腸 (20 ~ 30%)、大腸・食道 (それぞれ 5% 程度) などの粘膜下腫瘍として発症する。従来の化学療法や放射線療法には抵抗性を示すことから、手術が唯一有効な治療とされてきたが、イマチニブ（商品名：グリベック®）の開発により GIST の治療が一変しつつある。もともと GIST は 1980 年代に電子顕微鏡や免疫組織学的染色などの発展に伴い平滑筋腫瘍とは異なる腫瘍として認識されるようになり、1990 年代後半になって初めて CD34 や KIT の発現を認める腫瘍として認識されるようになった。臨床的には消化管検診にて粘膜下腫瘍として発見され、その後画像診断が行なわれる。その後内視鏡下生検を行い、免疫組織学的染色にて KIT または CD34 の発現を認めるか、デスミン（平滑筋腫のマーカー）・S-100 蛋白（神経鞘腫のマーカー）がいずれも陰性であれば GIST と診断される。GIST の治療方針は、単純に切除可能であれば完全切除を目指し、不完全切除または切除不能においてはイマチニブ内服にて腫瘍の縮小を目指す。

イマチニブは、慢性骨髓性白血病に対する Bcr-Abl チロシンキナーゼ活性阻害薬として開発されたが、2000 年より GIST に対する KIT チロシンキナーゼ活性も阻害することが確認され、2003 年より GIST の治療薬として承認された。イマチニブは通常 400mg/ 日内服投与され、腫瘍の増殖シグナルを阻害することにより、腫瘍の縮小が期待できるが、内服中止により再増殖を来たすことや、長期間投与によりイマチニブ耐性成分の出現が知られており、GIST に対する万能薬ではない。やはり治療の主体は切除であり、切除を中心に考えた上で、各々の症例ごとにイマチニブ療法と手術を組み合わせた治療プランを組み立てていくべきであろう。当科では、2011 年からの 2 年間で GIST と診断した 3 症例に対し、イマチニブを約 6 ヶ月間の投与の後に切除を行っており、その概要を報告する。

症例 1) 72 歳女性。C 型肝炎のフォロー中に腹部エコーにて胃と脾尾部の間に約 8cm 大の充実性腫瘍を指摘された。精査の結果、胃 GIST が疑われ、ポーリング生検にて KIT 陽性 GIST と診断した。脾尾部の温存を目指し、イマチニブ 400mg/ 日を 5 ヶ月投与したところ、6cm まで腫瘍は縮小し、胃部分切除のみで切除した。

症例 2) 77 歳女性。膀胱炎症状・尿閉に対する精査のため施行した造影 CT にて骨盤内に約 11cm の巨大な充実性腫瘍を認めた。精査にて直腸 GIST が疑われ、経肛門的針生検にて KIT 陽性直腸 GIST と診断した。肛門機能温存を目指し、イマチニブ 400mg/ 日の投与を開始したところ、皮疹・顔面浮腫の出現あり 1 ヶ月後より 200mg/ 日に減量して合計 6 ヶ月間継続した。腫瘍は 7cm まで縮小するとともに肛門からの距離が確保でき、低位前方切除にて切除した。

症例 3) 23 歳男性。小腸に充実成分を伴う腫瘍を伴い、小腸の捻転も伴った腹膜炎にて発症し、緊急開腹手術を施行した。術中、約 11cm の空腸由来の腫瘍を認め、病理診断にて KIT 陽性空

腸 GIST と診断した。術後、腹腔内再発を想定し、慎重にフォローしていたところ、術後 9 ヶ月時の造影 CT にて左上腹部と骨盤内にそれぞれ 3cm、2cm の結節を認め、腹腔内再発と診断した。イマチニブ 400mg/ 日の投与を開始したところ、腫瘍は縮小し、6 ヶ月後に遺残腫瘍を摘出した。症例 3 のみ摘出後のイマチニブ投与を継続している。

イマチニブのネオアジュバント療法は Marginally Resectable GIST に対し行なわれる臨床試験段階の治療である。イマチニブにより手術の根治性・機能温存が図れる可能性が高く、GIST に対する手術を考えた場合、症例ごとに適切な投与法を検討していく必要がある。

## 西多摩地区医療懇話会



平成 25 年 2 月 2 日（土） フォレストイン昭和館車屋にて、西多摩地区医療懇話会が行われました。

はじめに 横田卓史西多摩医師会長と市町村長を代表して竹内俊夫青梅市長の挨拶があり、続いて、平成 25 年度学校医・予防接種報酬委託料等の協議結果についての報告がありました。次に、真鍋勉西多摩医師会理事の乾杯の音頭で懇談会が始まりました。

途中、江本浩西多摩医師会地域医療担当理事から『西多摩地域における災害医療体制の構築について』というテーマでお話をいただきました。

### 1. 東京都災害医療協議会報告として

行政区域に応じた体制の整備として、都災害医療コーディネーターを中心とした情報連絡体制の整備、他県の応援チームの受け入れや広域搬送体制の確保。

次に、二次保健医療圏は、地域災害医療コーディネーターを中心とした医療対策拠点を設置。西多摩では、青梅市立総合病院が地域災害拠点中核病院に指定された。区市町村は、災害医療コーディネーターを設置する。医療機関を災害拠点病院・災害拠点連携病院・災害医療支援病院・診療所・歯科診療所・薬局・緊急医療救護所・医療救護所に分け、役割分担を明確化する。

### 2. 西多摩地域災害医療体制として

昨年 11 月西多摩二次医療圏地域災害医療連携会議を行い、災害時の医薬品等供給体制について話し合いを行った。今後、市町村災害医療コーディネーターの選任・病院の役割分担・患者搬送手段の整備等について検討していく。

会は、鹿児島武志西多摩医師会副会長の締めで散会となりました。

出席者 竹内俊夫（青梅市長） 加藤育男（福生市長） 並木心（羽村市長）

臼井孝（あきる野市長） 河村文夫（奥多摩町長） 石塚幸右衛門（瑞穂町長）

橋本聖二（日の出町長） 坂本義次（檜原村長） 松岡俊夫（青梅市健康福祉部長）

斎藤剛一（青梅市健康課長） 清水信行（奥多摩町福祉保健課長）

横田卓史 鹿児島武志 真鍋勉 大堀洋一 中野和広 西成田進 宮城真理

蓼沼翼 江本浩 小林康弘 朱膳寺洋文 安部学 川口卓治 近藤之暢

野木正嗣 奥村充

（敬称略）

文責 奥村 充

## 『糖尿病医療連携検討会からの今月のメッセージ』

今月のメッセージは検討会委員である、青梅市立総合病院 腎臓内科部長の木本成昭先生にお願い致しました。

### 糖尿病患者の腎保護と糖尿病腎症の早期発見・治療のために

- (1) 全症例一度は、尿中アルブミン定量を行って下さい
  - ・尿中アルブミン定量は尿中クレアチニン補正により、隨時尿にて提出可能です
  - ・3ヶ月に1回保険請求可能です
- (2) eGFR を算出して下さい (血清クレアチニン値・年齢・性別より算出)
  - ・eGFR 50mL/min/1.73m<sup>2</sup>以下の症例は一度は腎臓専門医へ紹介して下さい
- (3) HbA1c 6.9% (NGSP) 未満を目指しましょう
- (4) 血圧 130/80mmHg 以下を目指しましょう
  - また、高齢者では過度の降圧は避けましょう
- (5) 蛋白尿があれば、尿蛋白 / 尿中クレアチニンによる比 (g/gCr) を測定して下さい
  - 随时尿にて、尿蛋白定量 (mg/dL)、尿中クレアチニン定量 (mg/dL) より比を算出できます



## 第 12 回西多摩医師会在宅医療連絡会報告



公衆衛生部長 川口 卓治

1. 製品説明 イグザレルト 非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中および全身性塞栓症の発症予防

2. 持ち出しカルテ機能付クラウド型モバイルPC、レセコン機能付

電波が届かない往診先でも、カルテをパソコンの電子カルテにいれて出かければ、入力できる。カルテ、医事一体型で、クリック1回で、ぱっと、画面が切り替わる。

テンプレート、カルテスタンプ、手書き入力、ワープロ入力など、便利機能あり、端末ライセンスが無料などの、説明があった。

### 地域連携ネットワーク

患者様の個人情報など、秘匿性の高い医療情報を電子的に扱うため、機密性と安全性が確保された情報のやり取りを行うことを目的としたネットワーク

医師会などが中心になることで、病院、診療所、医院、行政、コメディカルとの連携と拡張することができる。

### 3. 前回の残された課題

療養型を有する在宅医療協力病院へのアンケート 原案通り行なっていきます。

### 西多摩在宅医療連絡会

- 目的
- \* 各医療機関が、西多摩医師会内で、連携して、在宅医療に取り組む。
  - \* 多職種と協力して、在宅医療に取り組む。
  - \* 在宅医療を受けたい方が、スムーズに在宅医療を受けられるように取り組む
  - \* 在宅医療を受けている方が、患者としての尊厳を損なうことなく、生活できる

よう、行政と協力にて、取り組む。

**会員** 西多摩医師会員のうち、在宅医療に取り組み、在宅医療連絡会の目的に賛同するもので、入会を申し込むもの

また、会員でなくとも、興味のある関係者は、参加することができます。

**活動** \* 在宅医療連絡会の会合を第2月曜日午後7時30分から9時15分まで西多摩医師会館で行う。

症例検討会、レセプト点数勉強会、講演会、懇談会などを行う。最後に、次回の予定を相談する。

\* 西多摩医師会事務局内に、在宅医療連絡会相談取次ぎ窓口、月曜日から金曜日午後1時から3時まで設置し、各医療機関、行政、介護事業者との連携をとっていく。

\* 西多摩在宅医療機関名簿を毎年9月に更新する。

\* 主治医不在時の看取りの連携

患者、家族との看取りの契約書の作成、医師間の契約書の作成

\* 西多摩地区自治体高齢介護課と、西多摩医師会として、話し合いを年1回もつ。

\* 基幹病院、市中病院、療養型病院との連携をすすめる。

療養型病院へのアンケート

\* 他職種との会合を計画する。又、特養担当医との会合を計画する。

\* 災害時の在宅療養者対策を考えていく。

\* 個人情報保護の観点から、情報交換のあり方を考えていく。

\* その他 などが、検討された。

#### 4. 次回の予定

3月11日 月曜日 午後7時30分 西多摩医師会館にて、

司会、多摩リハビリテーション病院 吉田雅彦先生、伊藤尚真先生

\* テープ型パーキンソン治療薬

\* 「人口動態と在宅医療の未来予測」

土屋輝昌先生 (医療法人社団光輝会・社会福祉法人もくせい会)

\* 年間スケジュールについて

\* その他

#### 学術講演会の予定

開催日	開始～終了時間 開催時間	会 場	単位数	カリキュラム コード	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
3. 14 (木)	19:30 ~ 20:45	青梅市立 総合病院 新棟セミナー室	1	73, 82	学術講演会 「リスクファクターと しての高尿酸血症と その治療について」	東京女子医科大学第4内科 助教 鶴田 悠木先生
4. 11 (木)	19:30 ~ 21:15	羽村市 生涯学習センター ゆとろぎ	1.5	11, 12, 35	学術講演会 「乳幼児に必要な予 防接種～最近の話 題～」	崎山小児科 院長 崎山 弘先生

## 第2回西多摩認知症医療連携委員会報告



2月7日(木)、西多摩医師会館に於いて、第2回西多摩認知症医療連携委員会を開催しましたので、ご報告いたします。

出席者：横田卓史、高橋真冬、植田宏樹、村森史彦、三ツ汐洋、笹森寛生  
川口卓治、小林康弘（敬称略） 江本浩（文責）

委員会の冒頭に、本年1月4日より運営を開始した東京都指定の認知症疾患医療センターについて成木台病院院長、小林先生より概要説明があり、西多摩医療圏認知症疾患医療・介護連携協議会の開催を3月に予定していることが、報告されました。

### 報告および協議事項

1. 認知症医療連携のためのアンケート調査の結果について
2. 物忘れ相談医リストの更新について
3. 医療連携シートの作成について

### 討議内容

1. 西多摩医師会員（診療所および病院）に対して認知症医療連携に関するFAXアンケートを行った結果、診療所173のうち92施設、病院30のうち23施設より回答が得られた。  
その内容として様々な貴重なご意見が寄せられた。
2. アンケート調査の結果をもとに物忘れ相談医リストの原案を作成したが、リスト掲載希望施設が予想に比べ少数であったため、今後さらに声かけを行い1施設でも多く、ご協力頂けるように努力が必要。  
アンケート結果の詳細については、平成25年3月7日、青梅市立総合病院講堂に於いて開催する西多摩パネルディスカッション（テーマは認知症医療連携）において発表する。
3. 高橋委員が作成した認知症医療連携シートの原案について、その内容を討議した。連携シートはできるだけ簡便で使いやすい形式に立案され次回の委員会ではほぼ完成される見通しである。

（地域医療部 江本 浩）

### 理事会報告

★ Information

1月定例理事会

平成25年1月22日(火)

西多摩医師会館

[出席者：横田・鹿児島・野本・蓼沼・江本・川口・宮城・近藤・岩尾・小林・西成田・朱膳寺・奥村・大堀・中野]

### 【1】報告事項

#### (1) 都医地区医師会長連絡協議会

1. 都医からの伝達事項

1. 「学校欠席者情報収集システム」今日の学校・保育所の感染症の欠席者及び学級閉鎖情報の「共有」について

2. 東京都医師会主催第11回都民公開講座開催概要について
  3. 東京都医師会「広告のない新聞」—広告電通賞（優秀賞）、消費者のためになった広告コンクール入賞（金賞）受賞について—
  4. 多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業について
  5. 東京都内の介護老人保健施設設置状況（平成25年1月1日現在）について
  6. 予防接種施行時のチェックリストと不適切接種事例に関する調査票兼報告書等の活用並びに報告について
  7. 予防接種法改正による7ワクチンの定期接種化を実現するための署名活動の実施について
2. 地区医師会からの報告
    1. 中央ブロック（当番：小石川医師会）
    2. 城東ブロック（当番：江東区医師会）
    3. 城西ブロック（当番：目黒区医師会）
    4. 城南ブロック（当番：蒲田医師会）
    5. 城北ブロック（当番：練馬区医師会）
    6. 多摩ブロック（当番：西多摩医師会） 校長が学校医の都合を無視して、一方的に検診の日時を決めてしまう問題が発生しているという報告があった。
    7. 大学ブロック（当番：東京医科歯科大学医師会）
  3. 出席者による意見交換
  4. その他
    1. 「在宅医療についての郡市区医師会アンケート調査」へのご協力のお願いについて

#### 行事予定

1. 2月の地区医師会長連絡協議会  
日時：平成25年2月15日（金）午後2時～  
場所：東京都医師会館
2. 3月の地区医師会長連絡協議会  
日時：平成25年3月15日（金）午後2時～  
場所：東京都医師会館
3. 第278回（定時）代議員会（平成25年度事業計画・予算）  
日時：平成25年3月28日（木）午後2時～  
場所：池坊お茶の水学院講堂
4. 第279回（定時）代議員会（平成24年度決算・役員等選挙）  
日時：平成25年6月16日（日）午前10時～（予定）  
場所：ベルサール飯田橋駅前

#### (2) 各部報告

1. 福祉部 1月19日に開催された賀詞交歓会の状況について報告
2. 地域医療部
  - ・「平成25年度学校医等各種報酬および予防接種委託料」の交渉結果について
  - ・「認知症医療連携のためのアンケート」（認知症医療連携委員会）の回答状況について

3. 学校医部 1月 24 日に開催予定の「西多摩学校保健協議会」  
福生病院眼科 津村先生に「目の健康について」講演を依頼
4. 総務部 1月 22 日、医師会館建設に係る「指名競争見積」参加企業による  
プレゼンテーションを実施した

### (3) 地区会報告（各地区理事）

- 青梅市 1月 11 日 新年会開催
- 福生市 1月 16 日 新年会開催
- 羽村市
- あきる野市 1月 21 日 例会開催
- 瑞穂町 1月 15 日 例会開催
- 日の出町 2月 1 日 新年会を予定

### (4) その他報告

- ・東京都医師会第 15 回勤務医委員会（1月 7 日 進藤晃 委員）
  - 勤務医負担軽減の具体策について—「勤務医の労働環境の問題点と改善策」及び「患者対応の問題点と対応策について」のアンケート結果も踏まえて
- ・東京都医師会第 15 回健康スポーツ医学委員会（1月 10 日 會澤義之 委員）
  - (1) 平成 25 年度健康スポーツ医学研修会の開催について
    - 第 1 回平成 25 年 5 月 11 日（土）東京医科大学病院
      - ・健康スポーツ医が知っておくべきドーピング防止情報
      - ・スポーツ現場・職場における応急処置と実習（実技）
  - (2) 諮問について
    - 平成 23 年 8 月諮問
      - 「健康スポーツ医が支援できる地区医師会活動」

## 【2】報告承認事項

- (1) 入・退会会員、会員変更について —— 承認 ——
- (2) 平成 25 年度診療報酬請求書提出日（案）について —— 承認 ——
- (3) IT 委員会報告について（継続） —— 承認 ——
  - 報告書による実施項目・依頼先等について検討し、具体的な内容に進むことについて承認された
- (4) 平成 24 年度西多摩保健所難病保健医療福祉調整会議の開催について（依頼） —— 承認 ——
  - 標記依頼に対し川口理事を推薦することが提案され承認された。

## 【3】協議事項

- (1) 平成 25 年度日の出町小・中学校耳鼻咽喉科及び眼科検診の承諾について —— 可決 ——
- (2) 平成 25 年度羽村市公立学校医の推薦について（依頼） —— 可決 ——
- (3) 平成 25 年度学校医（内科・耳鼻科・眼科）の選任について（依頼） —— 可決 ——
  - 第二小学校の内科医を波多野嗣久先生に、第三小学校の内科医を瀬在秀一先生に変更し、その他は平成 24 年度と同様の医師を選任することが提案され可決された。
  - （波多野先生については年度内に会員となっていただく）
- (4) 平成 25 年度青梅市立小・中学校医の推薦について（依頼） —— 可決 ——

- (5) 平成 25 年度保育園属託医（内科医）の推薦について（依頼） —— 可決 ——  
 (6) 平成 25 年度奥多摩町立学校医の推薦について（依頼） —— 可決 ——  
 (7) 大気汚染障害者認定審査会委員の推薦について（依頼） —— 可決 ——

平成 25 年 3 月 30 日の現委員任期満了に伴う次期委員の推薦依頼につき、次期も引き続き現委員を推薦することが提案され可決承認された。

### 【3】その他

- (1) 東京都医師会代議員及び同予備代議員の選出委託に伴う「告示」の送付について  
 資料により「告示」（案）が示され、会員へ通知する件と合わせて紹介され了承された  
 〈追加〉 川口理事より、都医公衆衛生委員会への出席及び委員会の内容等が紹介された

## 会員通知

- 会報
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 産業医研修会（3/16 日本医科大学医師会）
- 第21回西多摩消化器疾患カンファレンス
- 第12回在宅医療連絡会（2/18）
- 第11回西多摩医師会臨床報告会（2/19）
- 第4回糖尿病セミナー（3/15）
- 学術講演会（2/28）
- 公立阿伎留医療センター医局講演会（2/25）
- 平成25年度診療報酬請求書提出日一覧表
- 第11回市民フォーラム「市民側から見た災害対策」（2/15）
- 平成24年度リハビリテーション講演会（2/23）
- 「東京都医師会団体医師賠償責任保険」について
- 告示（東京都医師会代議員・予備代議員）
- 平成25年4月1日から国民健康保険組合の保険証が更新されます

- 「がん治療連携指導料」の施設基準届出に係る連携保険医療機関の新規追加及び届出内容の変更について
- 平成24年度東京都立学校産業医研修会（第3回）の開催について（3/23）
- 「予防接種の不適切接種調査票兼報告書」の提出について（依頼）
- 青梅市立総合病院だより
- 西多摩パネルディスカッション2013 「認知症の地域医療連携」（3/7）
- 第20回西多摩三師会市民公開講座「無理なくダイエットするために」（2/23）
- きんえんポケットブック
- COPD（慢性閉塞性肺疾患）
- 教育委員会からの依頼事項について（インフルエンザ等罹患児童の出席停止期間基準）

## 医師会の動き

医療機関数	213	病院	30
		医院・診療所	183
会員数	553	A会員	203
		B会員	350

### 会議

- 2月2日 西多摩地区医療懇話会  
 7日 西多摩認知症医療連携委員会  
 12日 定例理事会  
 18日 第12回在宅医療連絡会

- 22日 一般社団法人移行に伴う説明会（私立病院）  
 22日 会報編集委員会  
 26日 定例理事会

### 講演会・その他

- 2月7日 保険整備委員会  
 19日 第11回西多摩医師会臨床報告会  
 1. 「多彩な症状を呈した新生児消

- 化管アレルギーの2症例」  
公立福生病院小児科  
羽田伊知郎 先生 他
- 2.「離床動作の自立を目指して」  
(医社) 美会 青梅今井病院  
土方 幸樹 先生 他
- 3.「症例報告～西多摩地域におけるツツガムシ病の現状～」  
青梅市立総合病院  
リウマチ・膠原病科  
稻垣 雅子 先生 他
- 4.「混合性結合組織病 (MCTD) の経過中に成人発症Still病を合併した1例」  
公立阿伎留医療センター内科  
リウマチ科 砂岡 宏和 先生 他
- 5.「西多摩医師会館での糖尿病教室を受講した当院患者14例の検討」  
西多摩地域糖尿病医療連携  
検討会委員・野本医院  
野本 正嗣 先生
- 21日 法律相談  
28日 糖尿病教室

**役員出張**

- 2月15日 東京都医師会地区医師会長連絡協議会  
15日 多摩ブロック医師会長・副会長連絡協議会  
23日 西多摩三師会 市民公開講座  
27日 東京都医師会在宅難病患者訪問診療事業実施協議会

**【入会会員】**

- 氏名 岩浅 徳洋  
勤務先 (医社) 仁成会 高木病院  
出身校大学 福井医科大学 平成14年3月卒
- 氏名 松永 洋一  
勤務先 公立阿伎留医療センター  
出身校大学 金沢大学 昭和63年3月卒・  
京都大学大学院 平成10年3月卒

氏名 波多野 嗣久  
勤務先 (医社) 悠救会 波多野医院  
出身校大学 東京医科大学 平成6年3月卒

**【退会会員】**

- 氏名 鹿野 晃  
勤務先 青梅市立総合病院
- 氏名 田中 聰  
勤務先 (医社) 仁成会 高木病院
- 氏名 西井 貴誠  
勤務先 (医社) 仁成会 高木病院
- 氏名 中島 直也  
勤務先 (医社) 仁成会 高木病院

**あとがき**

今年も寒い冬でしたが、ようやく春らしい日が訪れようとしています。それとともに例年必ず来るのがスギ花粉であります。ゴルフはしたいが花粉は浴びたくない。悩みながらも結局ゴルフが勝つので今日は風が吹くなと祈りながら、ゴルフ場に向かっています。

しかし!! 今年は何やら中国から黄砂とともに大気汚染の元凶となる超微粒子 PM2.5なるものが飛来してきており、さらに日本では多くの人のアレルギー源となるスギ花粉の飛散も重なり、この花粉と結びつくことでPM1.0 というさらに微小な物質に変化する可能性があるとのことで、より注意が必要になるというではありませんか。花粉マスクではこの微粒子は阻止することが出来ないようなので、そうなると防毒マスクが必需品になるのでしょうか。

呼吸器疾患の多発で医療財政が更に悪化する事のないように各国政府は中国には厳しく対処して頂きたいと思います。そして今こそ我らが環境兼内閣府副大臣にも期待したいと思います。

渡邊哲哉

## 表紙のことば



## 『雪解けのせせらぎ』

長野で見かけた、雪解けで水量を増した清流を、遅めのシャッター速度で撮つてみました。

雪は被写体として大変魅力的ですが、ゴルフ愛好家にとっては雷と並んで最悪の気象条件。この冬、休診日前の降雪に涙した方、多かったのではないでしょうか。

田村啓彦

## 訃報

## 大野 文朗 様

福生市牛浜 158

大野耳鼻咽喉科

院長 大野 芳裕 先生(ご尊父様)

去る平成25年2月9日ご逝去されました。  
謹んでお悔やみ申し上げます。

## お知らせ

事務局より お知らせ

平成25年4月(3月診療分)の

保険請求書類提出**4月8日(月)**

— 正午迄です —

## 法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克巳先生による法律相談を  
毎月第3木曜日午後2時より実施いたします。  
お気軽にご相談ください。

◎相談日	3月21日(木) 4月18日(木)
◎場所	西多摩医師会館和室
◎内容	医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・ 刑事に関するどのようなものでも結構です。
◎相談料	無料(但し相談を超える場合は別途)
◎申込方法	事前に医師会事務局迄お申込み願います。 (注)先生の都合で相談日を変更することもあります。

社団法人 西多摩医師会

平成25年3月1日発行

会長 横田卓史 〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会	奥村 充	近藤 之暢	鹿児島武志	鈴木 寿和	馬場 真澄	菊池 孝
		土田 大介	渡邊 哲哉	松崎 潤	湯田 淳	進藤 幸雄
		松本 学				

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

# 健康が 21世紀の扉を開く



命の輝きを見つめ続けて…  
**(株)武蔵臨床検査所**

食品と院内の環境を科学する  
**F・S サービス**

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8  
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659



みなさまと  
ともにいます。

人に、笑顔を届けます。

仕事の、そばにいます。

街に、喜びを広げます。

たましんは、  
いつもみなさまとともにいます。  
これまでも、これからも。